

七宝焼き

銅板に色ガラスの粉をのせ、高温で焼くと光沢の美しい七宝焼きができます。リングをつければオリジナルホルダーに。お土産に最適です。



ねらいとして考えられるもの

- ① 想像力・表現力を高める
- ② 名栗の思い出の作品を作る。

可能な活動場所

集会室

所員の指導	対象	月	人数	所要時間	費用
指導可*1	小学生以上	通年*2	10~60人 *3	2時間半	400円
団体が準備するもの		げんきプラザが準備するもの			
なし		銅板・キーホルダー・釉薬・うらびき・竹串・ティッシュペーパー・紙やすり・接着剤・網・水差し・焼きがま・延長コード・火ばさみ・鉄台・軍手・バケツ・グラインダー・新聞紙・雑巾・やかん			

実施要領

導入

- ① 動機付け
- ② 安全上の注意（下記「留意点」を参照）

準備（1テーブル 6人程度）

- ① 机を2つ合わせて新聞紙を一面に引く
- ② セットされた道具を各テーブルに1つ運ぶ。
- ③ 竹串・紙やすり・銅板・キーホルダーをテーブルに居る人数分用意する。
※銅板はなるべく油分が付かないよう、端を持つ。

実施

- ① 銅板の裏表を紙やすりを使って磨く。
※なるべく手に触れないように磨く。
- ② 銅板を網の上にのせる。
- ③ 裏引き（銅板の変形を防ぐためのもの）を銅板の裏（お椀型に置いた時上になる部分）にのせる。
※はがき1枚程度の厚さのせる。

- ④ 裏引きをのせたら、ティッシュペーパーを使って水を吸い取る。
※ティッシュペーパーを軽くのせると水が吸い取られる。裏引きがはがれないよう気を付ける。

- ④ 銅板の表を上にし、網の上に置く。
- ⑥ 竹串を使って銅板の表に釉薬をのせる。

※厚さは裏引きと同じくはがき1枚程度の厚さをのせる。

※2種類以上の釉薬を使う時は、必ず竹串を水洗いしてから次の釉薬を使うようにする。

※色の違う釉薬を重ねると焼きあがりて色が変わってしまうので、重ねないようにする。

※銅板が出ていると焦げてしまうので、全体が隠れるように釉薬をのせる。

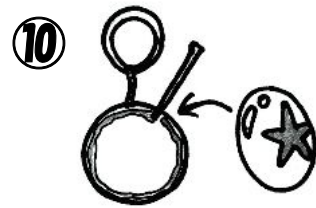
⑥



- ⑦ 釉薬をのせたらティッシュペーパーで水分を吸い取る。
- ⑧ 網にのせたまま、かまへ持っていく。
※かまへの出し入れは指導者が行う。
※かまは約800℃ととても熱いので、周りには近寄らず焼きあがるまで遠くで待機する。
※焼きあがった後5分程度はかまのそばで冷ましておく。

- ⑨ 冷めた銅板の周りをグラインダーを使って整える。
※場合により指導者が行う

- ⑩ キーホルダーの内側の周囲に接着剤を付けて、銅板をはめ込む。
※接着した後、5分程度はそのままにしておく。



片付け

- ① ケースに入った道具類やその他の道具を所定の場所に戻す。
- ② ティッシュペーパーや新聞紙をゴミ箱に捨てる。
- ③ 床に落ちているガラスの粉やゴミを掃き掃除する。

まとめ

- ・作品を披露し合う。
- ・ふりかえり
- ・七宝焼きはかまの温度や釉薬の厚みで色や光沢が変わるので、できあがったものと同じものは出来ない。たったひとつの作品なので大切にしよう伝える。

留意点

- ・銅板は油分がなるべく付かないように扱う。
- ・釉薬は色が混ざると使えなくなってしまうので、1色使うごとに竹串を水洗いする。
- ・かまは大変熱くなるので、指導者が管理をし、子どもは離れた場所から見るようにする。
- ・焼きあがった銅板は冷めるまで数分かかるので様子を見ながら待つ。
- ・場合により、グラインダーも指導者が扱う。

指導のポイント・展開のアイデア

- ・できあがりを使った釉薬の色を比べ、変化を見る。

- *1 指導可能時間は 9:15~11:45 13:00~17:00 です。指導希望団体が重なる場合等、ご要望に添えない場合や、団体指導者をお願いすることがあります。
- *2 7,8月の実施は要調整
- *3 60人を超える場合は、2班に分けて実施したり、交代で実施していただく場合もあります。